

令和5年度香取市まち・ひと・しごと創生推進会議 議事概要

開催日時： 令和5年10月23日（月） 午後1時30分から午後3時10分まで

開催場所： 香取市役所 7階全員協議会室

出席者： 21人

<委員>五十音順

熱田昇委員、伊藤寛委員、鵜澤広司委員、大川裕志委員、小淵康正委員、
加藤一徳委員、加藤健之委員、金親孝夫委員、上村進委員、嶋田隆委員、
鈴木恵子委員、関謙次郎委員、高橋秀治委員、高橋弘道委員、竹蓋伸六委員、
田山歩委員、堂下浩委員、橋本富清委員、堀江昌生委員、宮國健委員、
山之内俊雄委員

<事務局>

経営企画部 松田部長

企画政策課 石毛課長、堀越班長、平山副主幹、金田主任主事

議 事：(1) 第2期香取市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び香取市過疎地域持続的発展
計画の効果検証について【資料1、資料2】

その他：(1) 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金について【資料3、資料4】
(2) 令和5年度デジタル田園都市国家構想交付金の活用状況について【資料5】

配付資料：資料1 第2期香取市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び香取市過疎地域持続的発展計画の効果検証結果
資料2 第2期香取市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び香取市過疎地域持続的発展計画の成果指標の達成状況
資料3 令和4年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の効果検証結果
資料4 令和5年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業
資料5 デジタル田園都市国家構想交付金と香取市の取組について

議事内容：

- 1 開会 企画政策課政策班長 堀越
- 2 会長挨拶 香取市まち・ひと・しごと創生推進会議 会長 堂下 浩
- 3 議事

(1) 第2期香取市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び香取市過疎地域持続的発展計画の効果検証について【資料1、資料2】

資料1・資料2に基づき、事務局から説明。

議事について質疑応答

【竹蓋委員】

・子育て世代包括支援センターについて、虐待の相談件数は増えている。相談しやすい環境ということであれば、数字が上がれば重篤な事態を未然に防げるという意味で評価できる。センターの方々には頑張ってもらっている。相談者には障害を持つ方も多く、子どもだけの問題ではないことも多い。総合戦略に記載のある包括的相談体制について、社会福祉協議会でも重層的支援体制の中で扱う部門である。家庭の問題ということでプライバシーの壁があり、情報共有が難しいがフットワーク良く対応している。改めて担当の方々には頑張ってもらいたい。

・発達相談事業について、相談を受けた時点はスタートであり、いかに療育に結び付けていくかが大事であり、それを担う児童発達支援センターが重要となる。自治体に一つ設置されることになっており、香取市では神崎町・東庄町と共同で「コスモスの花」に委託している状況。昨年度はすべて香取市民というわけではないが1日平均5.5人が利用していたところ、銚子市の施設では1日平均12.5人が利用していた。差の理由は不明であるが、行政による支援に係る支出は銚子市が香取市の6.8倍ということを確認いただきたい。

・介護予防事業について、もりもり体操など多くの方が参加しているところだが、社会福祉協議会の現場の声によると、仲間同士で参加する方が多いようだが高齢者クラブの高齢化が見受けられる。地域によって参加者の差が大きくなっていることから、どうにかしないといけない。介護保険制度も厳しくなっており、介護報酬の地域区分が成田市は介護4級・障害3級であるところ、香取市は等外となっており、その差が人件費に充てられることとなっていることから、人材の流出が懸念される。稲敷市でも7級であることから、厚労省へお願いに行った。3年に一度の改定ということで今回は見送りになってしまったが、介護報酬が上がっても人材がいけないという状況にならないよう、何とかしていかなければならない。理想論ではあるが、介護が必要とならないよう予防し、それでも介護が必要となった場合について皆で考えていければと思う。

【会長】

子育て包括支援センターに係るハラスメントのネットワークについて、一般に体制が整ってくると相談が増える傾向があるそうなので、A評価ということだが、努力の結果である

という点から評価できるのではと考える。

【橋本委員】

子育て支援に関しては説明があったが、その前段階の婚活について言及がなかったので伺う。ホームページを見ると結婚新生活支援事業があるということだが、かつて市で行っていた婚活事業について、今こそやるべきなのでは。将来展望として、香取市では2045年に人口53,000人程度の人口維持を目標にすると会議で確認してきたことから、婚活事業について検討してはどうか。

【事務局】

婚活事業について、以前は市で行っていたが、H30の市民事業仕分けで不要・凍結と判断されたことから、事業廃止したという経緯がある。しかし過疎地域に指定されるなど状況の変化があることから、婚活支援については直営や民間事業者への支援など、幅広い支援方法について検討したい。

【橋本委員】

現在の担当は子育て支援課となっているが、婚活は企画政策課が担当なのか。

【事務局】

婚活事業をやっていた当時は、企画政策課が担当であった。現在実施している結婚新生活支援事業は子育て支援課が担当。今後の婚活についての担当課は検討中。結婚新生活支援事業は厚生労働省が所管であることから、子育て支援課で実施している。

【橋本委員】

ぜひユニークな婚活事業になればいいなと思う。

商店街について、水曜日に来訪した観光客が寄るところがない。映画「大河への道」が上映されるなど、香取市への注目度が高まっている。一律の定休日ではなく、休日のローテーションなどで観光案内も含めた対応があると、観光客の方もがっかりしないで済むのでは。

【事務局】

商店街のお休みの件は一般観光客の方からもご意見をいただいているので、今後、関係機関と意見交換を行いながら検討していきたい。

【橋本委員】

重要業績評価指標（以下「KPI」という。）で市民が住み続けたいと思う割合は63.5%であって、目標値の70%に満たなかった。ただ目標値が高すぎる思うので、60%にして達成でも良いのでは。香取市周辺にお住まいの方は地元愛が強い人が多い。

【事務局】

第3期戦略のKPIでは、今回の結果を踏まえ、65%を目標に設定している。

【会長】

確かに現実的なところでは65%が妥当。

【加藤委員】

文化活用について、もっと活かされるべきものが香取市にはたくさんある。香取神宮や神話に登場する人物を乗せた山車など、SNSをはじめPRを強化してみれば。

【事務局】

今年度からシティプロモーション推進室を設置し、歴史に限らず市の様々な魅力を内外にPRする部署として事業を行っている。いただいたご意見も含め、今後さらにPRを強化していく。

【会長】

現在の市の基本構想「豊かな暮らしを育む 歴史文化・自然の郷 香取」ということで、歴史文化は香取市の大きな魅力である。ここを活かしていくのは香取市としても力を入れていくべき箇所かと思う。

【高橋弘道委員】

ここまでの効果検証について、全体的にA評価の事業が多く、市の職員はじめ関係機関の皆様の尽力でこのような結果となったのではないかと思う。ただ総括としてははっきり見えず、ビジョンがどう達成できたのか。「まち・ひと・しごと創生」ということで、まちの発展や人口減少を食い止めることに関する数値目標はどうだったのか、しごとの創生についてはGDPによる経済効果などの数値が分からないと全体的な検証・評価ができないのでは。そうでないと次の計画への反映も心もとないと思った。

【事務局】

まず「まち・ひと・しごと創生総合戦略」のシンプルな目標としては、2045年の香取市の人口規模を53,000人程度に維持するというものである。国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）が出した人口予測では2045年に43,000人であるところを、戦略に基づいて10,000人ほど減少幅を減らそうというもの。令和2年の実績では、社人研の予測より600人ほど上振れしており、人口減少幅は予測よりも緩やかとなった。人口減少は国全体で止められるところではないが、減少幅を小さくしていこうという目標になっている。総評的な検証結果は今申し上げたところだが、令和2年度実績においては戦略による一定の効果があつたと考えている。個々の事業実績の積み重ねが複雑に作用し、全体へも効果が及んだものと分析している。

【高橋弘道委員】

人口増加というよりは、減少幅を小さくしていこうという目標だということが理解できた。それを前提に、2045年の香取市の形について、イメージの共有はできているのか。現在から20,000人減る姿が共有できていないと、やみくもではだめで、空き家であったりインフラであったり、ある程度地域を区分する議論も出てくる可能性がある。長期計画に対する中期計画である場合評価が難しく、学区・産業など地域ごとのビジョンのようなものがあると良いと感じる。

【事務局】

まさにおっしゃられるとおりで、今後都市マスタープランの策定等に反映できればと思う。総合計画の概要版は自治会を通じて全戸配布をしたので、市民一人一人へ将来像を共有できるよう努める。

【会長】

個々のKPIだけでなく、それらを総括していかに次に活かしていくか、改めてやっていければと思う。人口が予想より多かったということは、考え方を変えれば長寿の方が増えたという面もあるかと思うので、単純な数字だけでなく中身を分析して行くことが重要。

その他（1）新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金について【資料3、資料4】

資料3、資料4に基づき、事務局から説明。

内容について質疑応答

【高橋弘道委員】

保育園を運営しており、交付金を活用して支援いただいたことに感謝する。ただ、光熱費の差額を出すなど双方の手間が多かったように感じるので、公定価格を基にするなど他に方法がなかったか。他の事業も含め、見直していただけると良いのでは。

【事務局】

迅速に支援をする観点と、事業者等の負担を踏まえ、光熱費等の削減に向けた努力を加味し、今後の支援策を検討していきたい。

【宮國委員】

業務の関係でお客様に支援を案内するが、知らない方も多い。ホームページ等に載っているとは思いますが、どうやったらもっと周知できるか。

【事務局】

周知方法は実施計画にも記載する欄があり、主にホームページ等で周知を図っている。また各事業担当課でも様々な周知方法を検討しているが、委員ご指摘のとおり、対象全員には周知できていないと感じる。今後の事業検討の際にも担当課と検討し、支援対象すべ

てに周知できるよう取り組むので、お力添えいただきたい。

【熱田委員】

子どもたちへの支援に関して、所得制限なく支援いただき感謝する。一方医療関係者への支援に関して、コロナによって患者は増えていたので、支援の必要があったのか疑問である。

【事務局】

医療機関への支援事業は、医師会から要望があった。発熱外来等で通常の診療ができず、感染対策を講じながらの診察をする中で、苦慮されたと聞いている。医療機関が疲弊してしまうと最終的には市民へ影響が及ぶことから、こういった支援を実施した。

【会長】

自身が行う中小企業の資金繰りについての研究の中で、新型コロナ禍において医療機関が実は苦慮していたという事例があったことから、このような支援は必要があったのではと感じる。

その他（２）令和５年度デジタル田園都市国家構想交付金の活用について【資料５】

資料５に基づき、事務局から説明

内容について質疑応答

【高橋弘道委員】

岸田首相の肝いりと認識しているが、長い期間あるようなものでもないと思っているので、ぜひ活用してほしい。市の事業のデジタル化に資するものだとは認識している。プレミアム商品券やマイナンバーの活用のほか、文化財の3Dアーカイブ化などで魅力発信・観光に活かすなどできればよいのではと感じる。

【事務局】

いただいた意見については担当課と共有し、検討する。

【会長】

国の予算額があまり大きくないので、できる限り活用しDXを推進していただきたい。

【会長】

他にご意見等なければ、最後になるが、議事（１）について承認いただければ拍手をお願いします。

（一同拍手）

拍手多数と認め、承認とする。

4 閉会

事務局の司会進行により、閉会。

以上